



発行所  
**世界日報社**  
 東京都渋谷区宇田川町12番9号  
 郵便番号 150  
 電話 (03) 476-3411  
 郵便振替口座 東京7-40860 番  
 ©世界日報社 1983

新聞オフ輪用版材・オフセット印  
 刷用版材・写真製版用品機材  
**大正薬品工業株式会社**  
 〒135 東京都江東区永代1丁目10番5号  
 電話 03(641)0371(代表)

イ  
ハ  
ウ  
エ  
イ  
構  
想  
日  
韓  
ト  
ン  
ネ  
ル  
実  
現  
へ  
民  
間  
研  
究  
会  
が  
設  
立  
総  
会

国際ハイウェイで結び、民間研究会の設立総会が二十四日夜、東京都内のホテルで関係者約四百人を集めて開催された。

日本を起原に、韓国からアジアを経て英国までを鉄道やトンネルで結ぶ構想は、戦前では国鉄技師によって構想され、また最近では大手建設会社の大林組がユーラシア・ドライブウェイを提言している。今回の国際ハイ

ウェイ構想は、これらの技術的発想に、一昨年、国際文化財同創設者の文鮮明師が提唱した「飢餓、疾病、戦争からの解放を切望し、平和と幸福に満ちあふれた理想世界を願う人類の夢を実現する」という理念的発想を加えて、その可能性を研究、実現をめざそうというもの。

総会ではまず、呼びかけ人代表の松下正寿・元立教大学総長が「最大の困難は政治的困難、人間関係の困難であるが、これを越えずして実現はない。これを実現するには、平凡な表現

かもしれないが、和の精神しかない」とあいさつ。続いて役員選出が行われた。

会長に就任した北海道大学名誉教授で、青函トンネルの技術顧問でもある佐々保雄氏は「日韓トンネルに、日本が世界に奉仕し、平和の道を築く第一歩としての価値を見いだしている。固い決心と勇気を持って、実現に当たりたい」と抱負を述べた。

全長百三十キロの同トンネルには三兆円を超える工費と、二十年の歳月が予想されるが、技術・資金面のほか、日韓両政府への折衝、地質・環境調査など多くの課題があり、同研究会では学者・専門家による分科会を設置し、研究を進めていく予定である。



「国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会」の設立総会であいさつする佐々保雄会長—24日午後6時40分、東京・紀尾井町のホテルニューオータニで